

平戸市都市計画マスタープラン

第2回策定委員会 議事要旨

日 時 平成24年3月27日(火)午後14時00分～午後16時00分

場 所 社会福祉協議室 会議室

出席者

【委員】鮫島委員長、町田副委員長、木田委員、相知委員、末永委員、松尾委員、立石委員、戸田委員、中村委員、松本委員、岡(松田委員代理)、鴨川委員、井手口委員、重富委員、岡委員、新井委員、尾上委員、川久保委員、田代委員
森委員(欠)、松山委員(欠)、横石委員(欠)、永田委員(欠)、池田委員(欠)

【事務局】白靴建設部長、山浦都市計画課長、三好参事、村山技師

【国際航業】山城、大畑

1. 開会

2. 議題

(1) 第1回マスタープラン策定委員会の議事内容

【資料1:平戸市都市計画マスタープラン 第1回策定委員会意見対応】の説明を行った。

(2) 現計画の検証

【資料3:平戸市都市計画マスタープラン 現計画の検証】の説明を行った。

委員長:第1回策定委員会で出た改革の検証が必要だという意見について今回説明してもらったが、これらについて意見はないか?

(ない、との声あり)

委員長:資料3の“見直しのポイント”によって計画を策定していくということによいか?

(はい、との声あり)

(3) 都市計画区域全体における課題

【資料4】の説明を行った。

委員長:高齢化が進行しているので、若い人の働く場所を確保するなどの雇用面での土地利用が必要だという課題があるが、どうだろうか?

井手口委員:産業の振興が必要とのことだが、平戸市において検討している場所・計画はあるのか?

副委員長：工業団地、公共用地の計画は数箇所あるが、需要がないので進んでいない。総合計画では企業誘致の優先順位が低く、誘致しても来ない。これまでに誘致した企業が出て行ったケースを何度も経験しているので、誘致のリスクを考えた時に、自分たちで産業を考えていこうという方針だった。土地はすでに準備されている。

事務局：土地は中野、迎紐差、津吉にある。

新井委員：中野工業団地、迎紐差、東中山の3箇所は誘致活動を続けているが、高速ネットワーク通信、情報通信の関係で遅れをとっており、中々進まない。西九州自動車道が開通すると平戸市はより一層不利になる。中野工業団地では平戸市が次世代エネルギーパークに認定された関係で、太陽光発電の問い合わせが数件来ており、そちらで話が決まると思うが、残念ながら雇用が発生しないという問題点がある。しかし土地を放置しておくよりも活用した方が良いということで、太陽光発電を誘致したいと思っている。田平の未利用地についても数件問い合わせがあり、太陽光発電の設置が進んでいくと思う。迎紐差も同じ方向でいく。津吉については、市外からの誘致ではなく、地場の企業を拡大することで雇用が発生するので、農産物加工の生産工場として話が進んでいる。

委員長：総合計画は、自力で雇用を生み出す努力をしないと難しい。長崎県のコールセンター等の団地雇用型の話は中々来ない。

井手口委員：先ほど情報通信設備の話が出たが、平戸市では光ケーブル工事が遅れている。そういったものを都市マスに入れて、計画の中で進めて行けば良いのでは？

新井委員：工事については光ケーブル導入をお願いした経緯があるが、需要と供給の関係で中々難しいので、離島は自治体が整備していくべきということだった。平戸市は当時の整備事業に乗らなかった為、整備が遅れている。技術は日進月歩で、現在光ケーブルに近い形の無線技術が発達しており、その辺りも合わせて何とかならないか協議しながら、国の事業に乗れないか検討している。今は光ケーブルがなくても携帯で大容量のデータ通信が出来るようになりつつあるので、無線で検討している。単独で光ケーブル工事を行うと市は100億円近い投資をすることになり、そこまでして必要なのか疑問である。

副委員長：ブロードバンドは市民の生活と密に関係していると思っている。そういう意味での情報通信のインフラ整備を都市マスに盛り込んでもらいたい。タブレット型携帯端末で情報を得ることが多くなっているが、高齢化にも対応しやすく良いと思う。高齢化社会の中でお年寄りが安全に生活できる要素の一つになる。

委員長：情報通信関係は、都市計画で言えば都市施設に位置づけられるものだが、どういう手順でいけば、地域全体の情報通信が時代に遅れずに対応できるかが今後の研究課題となる。

昨日、今日と平戸市全域を見たが、都市計画区域と市の構造があまり対応していないと感じた。平戸城下、紐差、津吉は生活利便施設がコンパクトにまとまっているので、その周辺の住民をネットワークで上手くカバーすると、かなり良いまちが出来る。田平は、田平港周辺に道路ネットワークで繋がっており、コンパクトに出来ていると感じたが、それと都市計画区域が対応していない。田平の南側は農村地帯であり、紐差は都市計画区域に入っておらず、平戸北部地域は市街化できないような地域が入っている。区域を大きく見直しながら、今あるコンパクトな都市構造を維持し、そこまでの交通ネットワークを整備すれば良いものが出てくると思う。皆さんから見てどうか？

副委員長：具体的な話をすれば、紐差は新たに都市計画区域に指定するのかどうか？バスは1日に2本で、公共交通機関があると言って良いのか疑問である。また「フェリーの利便性」とあるが、移動手段としてフェリーを使用している方の意見は中々反映されにくい。港の機能を考えると、フェリー利用者のことを考えた都市計画があっても良いのではないか。

委員長：フェリーがなくなると国道ではなくなる。ほとんどの方は買い物に自家用車を利用しているが、その1/3が高齢者で、さらに車の運転が出来ない高齢者も多数いる。それを踏まえて公共交通機関をどうするか？

副委員長：地域公共交通としてはバスでないといけないのか？軽自動車で済むような輸送量ではないか？

委員長：全国で公共交通を確保する話が出るが、実際に利用者がいないので、大半が赤字状態になり断念している。上手く維持できるシステムを考えないといけない。

新井委員：都市計画区域をどう考えるかで課題が変わってくる。交通弱者にしても、市街地と過疎地では対策が違う。先ほどのエネルギーや企業誘致についてもだが、この会議は都市計画区域を対象としているが。

事務局：都市計画区域内についての検討を考えている。紐差を拠点として考えるのであれば、都市計画区域の在り方についても議論をしていただければと考えている。

委員長：市全体を捉えながら、計画としては都市計画区域内を対象とするということである。都市計画税は取っているのか？

事務局：用途地域内のみ徴収している。

田代委員：計画については、生月や大島も含めて検討すべきだと考えている。

委員長：都市マスでは、土地利用のコントロール、都市施設の整備、必要に応じた開発の方針の検討が挙げられるが、それに応じた必要な費用を都市計画税で賄う、整備が必要なところは住民から税金を頂くという仕組みとなっている。都市計画区域に建物を建てる時には、建ぺい率や容積率等、一定のコントロールがある。制約ではなくて、自分たちのまちがよいものとなるための共通のルールという理解が望ましい。

新井委員：アプローチの仕方が色々あると思うが、区域を想定した課題の出し方があるかと思う。例えば宮之浦に漁村集落があるが、そういったところまで区域を拡大するのか疑問に思う。

委員長：事務局からの課題として、一部の江迎都市計画区域についても投げかけられている。いつまでも都市計画区域として抱えていて良いのかという考えである。津吉等もいつまでも区域に入れておいて良いのか？田平に新しい道路計画があり、都市計画区域外だが市街化の可能性がある。区域の在り方を検討しておかないといけない。区域の変更は別の手続きなので、都市マスの議論と一緒に扱っていきたいと思う。総合計画では市全体のことを扱っているので、都市マスでは都市計画について方向性を出す。議論が広くなりすぎないように、全体を考えた上でこういう区域にした方が良いという議論が出来たらよい。計画は区域内として考えていく。

立石委員：津吉は都市計画区域に入っているからといって、特に恩恵を受けていない。何故区域に入っているのか、経緯が分からない。国道に面していない区域である。道路整備もないし、区域内であれば安全な道路を整備して欲しいと思う。

委員長：前津吉は何故区域に入っているか？

事務局：前津吉は下水道を整備している。

建設部長：以前は市の人口が4万人以上だったので、前津吉は将来的に都市化するだろうと想定し区域設定し都市計画道路の指定や前津吉の下水道を整備した。津吉については都市計画区域としての恩恵をあまり受けていないし、都市計画税も取らない方針となった。計画当初からすると、現在はかけ離れた環境になっている。

都市計画課長：区域の要件は、市町村で人口1万人以上、市街地の中心区域内の人口が3千人以上としている。平戸、前津吉、田平がそれに該当しており、区域に設定していた。

新井委員：区域を外した場合どういうデメリットがあるか？何か出来なくなるのか？

都市計画課長：区域内は、建ぺい率、容積率の制限が設けられているが、そういった制限はないので住宅地のゆとりがなく密集して建つことが考えられる。また都市公園の補助等が出なくなる。

新井委員：津吉は昭和30年代当時人口が多かったが、今は空き家が多い。将来の土地利用をどうするかというルール作りが必要な地域なのか？区域に入っていないと事業ができない訳ではない。

立石委員：津吉には公園もない。都市計画区域は道路を作らないといけない、と設定していたのだろうが、公園を作って欲しい、という話はなかったのか？

建設部長：津吉地区については公園の話はなかった。

松尾委員：紐差から来ているが、昭和30年の平戸市合併後、1つの都市計画区域にすることにより、色々な事業ができて地域の為になる、と聞いて区域の承認をした。紐差は住民の反対により入っていないと聞いている。これから地元の話をして区域の見直しの検討を行って欲しい。

委員長：この委員会が、都市計画区域について検討する。人口規模や整備について、都市計画的に対処するところと、農政的に対処するところと分ける必要があるかと思う。津吉、前津吉で事業をするのではなく、環境を良くする為に、住民で話をしていく。維持管理、再編を上手く行う。検討するのは良い機会だと思う。今回結論が出れば良いが、次回の計画の見直しまでに準備が出来ればと思う。

末長委員：『都市計画区域全体における課題』にて、『人口・産業：産業振興の受け皿として土地利用の誘導を検討』、『土地利用：農地や自然環境を保全し、耕作放棄地の利活用促進』とあるが、各区域ではなく、全体的に見て検討しないといけない。

委員長：これまでは都市が農村を侵食してきた。区域を明瞭にするという点を今指摘していただいたのではないかな。

木田委員：今は資料について課題の議論ではないか。例えば浄化槽設置がどれくらい出来ているか数字を入れた方が、具体的に話が出来るとはではないか？

事務局：浄化槽の数字はここにはないが、人口等は1回目の資料で整理している。数字が必要な時は、必要な資料をその都度お出しする。

委員長：浄化槽の設置状況はどの程度なのか。公園はどれくらい整備されていて、どれくらい増やすのか。今日、検討の視点をたくさん出していただきたい。

委員長：平戸は次世代エネルギーパークの認定をされているが、都市マスで対応しなければ

ばならない事項があるのか、それらの整合性を確認して欲しい。

新井委員：その関係で先ほど意見させてもらった。エネルギーパークについては中野や、大島等で検討している。

委員長：都市計画区域の見直しを行う。現在の区域と、区域の課題を整理する。

木田委員：日本全体で都市部に人口が集中して、地方の疲弊が著しい。人口減少に歯止めをかけることが重要である。平戸市は若い人が流出しているが、平戸周辺は国立公園に入っており、緑が豊かで良いところである。

委員長：高齢社会をどうするか、答えを出さないといけない。地域に定年はなく子育て環境の充実が必要であり、都市マスでそういったところがカバー出来る。紐差、津吉は生活基盤施設が整っているが、さらに充実させる。欠けないようにするのが都市マスである。

木田委員：人口減少に歯止めがかからない。その原因は何か考えないと、この計画に繋がっていかない。

委員長：平戸の幕末時代の人口は知らないが、日本全体では3,000万人、現在は1,3億人である。自力で地域を活かしていけるように頑張る。跡継ぎがいきいきと生活できるように考えていくのがこの計画である。今後、地域ごとに方針を考えていくので、次回から具体的に課題をどう捉えていくのか協議したい。

(4) その他

特になし

3. 閉会

以上